

月刊 島民 中之島

橋を渡る人の「街事情」マガジン

Vol.62 2013 9/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)



ナカノシマ大学

「古地図ウォーカー、大阪をゆく」
&
「すごいぞ! 鉄道王国・大阪」

申し込み受付中!

おかえり!
ダイビル

おかえり! ダイビル

7月に再オープンを果たした中之島のダイビル本館。
その姿に島民たちは、つい「おかえり!」という声をかけたくなった。
現代的な最新鋭タワービルとして生まれ変わりながらも、
低層部にはかつての意匠が見事に継承されている。
これまでの歴史も振り返りながら、グランドオープンを祝おう。

取材・文／平塚 桂(ぼむ企画) 写真／李 宗和

北側の正面入口。このビルのシンボルだった「鷺と少女の像」も再び姿を現したことで、いっそう「ダイビルが戻って来た」感が強い。

Daibiru Column.1 背が高くなった？ いえ、1925年に 戻りました。

新しくなったダイビル本館を見て、以前の様子をよく覚えている人は「あれ、前よりも背が高くなったのでは？」と感じるかもしれない。確かに1階部分の彫刻が施された柱などは、建て替え前と比べると長くなっている気がする。

しかし、答えはNO。州に面して建つダイビルは、堂島川の氾濫を防ぐための堤防増設など何度かの工事を経て、竣工時から地面の高さが少しずつ上がっていた。ビル自体をそれに合わせて持ち上げるわけにはいかないため、その分は旧ビルの1階部分を短くして調整していたのだ。下の建て替え前の写真とモノクロの竣工時の写真とを見比べてみると、北側の正面部分が今より低いことがわかるだろう。すなわち、高くなったというよりも、今回の建て替えによって竣工時に「戻った」という方が近いのだ。



建て替え前(上)の北側部分と竣工した頃の
外観(下)。写真提供／ダイビル株式会社

中之島の顔で
ありつづけるために

その姿を見た人は、息を飲んだのではない。建て替えを経て、あらためて堂島川沿いに登場した「ダイビル本館」。

中之島の顔として長年親しまれた建物の、見た目のみならず佇まいや空気感まで、以前のものを見事に引き継いでいる。

まるでビルが生まれ変わったかのような建て替えの背景にあるのは、レンガをはじめとする旧ビルの素材の再利用。そのためにひとつひとつの素材を取り



ダイビルのファンには、このように北西側から眺めるのが一番好きだという人も多い。北側の歩道が広くなった分、すっきりとした印象に見える。

竣工時の姿に近づいた外観。 「オリジナル」の持つ力を丁寧 に活用。

外し、洗浄するという驚くべき手間がかけられている。

なぜこれだけの手間をかけ、どのような苦勞を経て、歴史を継承する建物が生まれたのだろう。

オリジナルのパワー

「素材の再利用に踏み切った理由は、オリジナルの持つパワーの継承にありました」と、ダイビル株式会社 建設・技術統括部の上田貴幸さんは振り返る。旧ダイビル本館は、企業の創業プロジェクトであり、かつて大阪と呼ばれた、経済や文化、産業の中心であった

大阪を象徴する建物でもある。素材の再利用には、ダイビルの、そして大阪の「オリジナル」を継承しようという意図があった。

まず行ったのは、レンガやテラコッタ、彫刻といったパーツが再利用可能か調べることであった。素材の継承のために、解体前から入念な準備がはじまっていたのだ。その結果、頂部のテラコッタは躯体コンクリートに密着しており、再生可能な状態で採取するのは難しいが、壁面のレンガや正面の彫刻群などは再利用が可能なのがわかり、旧建物の素材を継承しながらの新築という大がかりな計画が、実現に向けて動きはじめた。

15万個のレンガを 外装に再利用

「2009年には、使える素材を可能な限り継承し、旧ビルの姿を再現するという方針は決まっていた」と上田さんは話す。外壁のレンガをはじめ、彫刻、内部空間のタイルなど「使える素材を可能な限り継承する」という方針は、低層部の内外装に徹底されている。そのプロセスをパーツごとに見てみよう。

外装材として再利用されたレンガは、なんと15万個。現在の建物の北西面の95%がこのレンガの再利用というから、その量や高い再利用率がわかる。しかも先に触れたように、レンガをはずしてきれいにするプロセスには、地道な手作業がある。古いレンガは鉄筋コンクリートの躯体と密着しており、ひとつひとつ手作業で取り外す必要がある。そのレンガは工場に運び込まれ、裏のモルタルが取り除かれ、積年の汚れを取るために中圧洗浄される。取り外しに2か月、取り外しから再利用できるレンガになるまでに5か月を要したというから、その手間が伺い知れるというものだ。

中央玄関上の大國貞蔵作「鷺と少女の像」をはじめ、レンガとともに建物を象徴する石の彫刻群も、多くが再利用

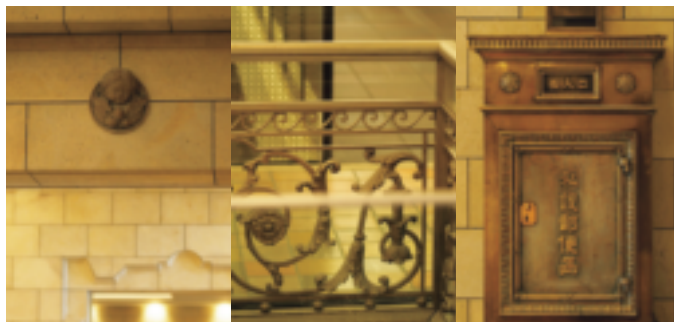


名建築と最新ビルがドッキング。 「歴史の継承」に新たな答え。

用された。これらは躯体と密着していたため躯体ごと切り出されたのち、岐阜県の石材メーカー「関ヶ原石材」の工場に運び込まれ、溶剤により石表面に付着した汚れや補修の跡などが洗浄された。傷みなどが激しく再利用ができない部分については工場と同じ形のものを作製。再利用の彫刻と比較され

ながら、色合わせやエイジングが施された。

徹底した再利用は内部空間にも及ぶ。エントランスホールの床タイルは、旧ビル1階のものを取り外して再利用。名物だった「私設郵便函」と銘が打たれたポストもかつてとはほぼ同じ場所に鎮座し、実際に郵便物を投函できる。



エントランスホールには旧ビルの意匠がたくさん。ビルに入居していた人には懐かしい鳩を抱く少女の彫刻(左)や2階吹き抜け部分の手すり(中)。メールシュートではないが郵便ポスト(右)も。

2階回廊の手すりも、古い手すりを取り付けた上に、現代の法律に合わせるためガラスの手すりを加えるという一手間をかけて再利用している。

素材が継承できない場合は可能な限り、旧ビルの竣工した1925年の時点のものに近づけた。たとえばエレベーターホール吹き抜けの豪華な天井レリーフは以前のものを型取りし、再現された。吹き抜けの照明器具は解体時には既に失われていたが、昔の写真を参考に、当初のものに近い器具を作製して取り付けたという。

Daibiru Column.2

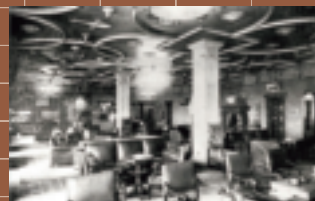
「本物」が見られる、 ダイビル サロン1923。



1階の南西隅に、訪れる者にとっては嬉しい粋な場所がある。「ダイビルサロン1923」と名付けられた空間は、旧ビルにあったサロンスペース「大ビル倶楽部」の雰囲気再現したもの。カーペットや天井装飾といった室内の意匠はもちろん、イスやテーブルなどの調度品は昔の資料を見ながら新たに作ったという凝りよう。写真（下）と比べても確かにそっくりだ。

ダイビル株式会社創立90周年を迎えたことを記念したもので、その歩みを知ることができるよう、旧ビルで使われていたテラコッタや扉（本物！）を展示してあったり、タッチ式のデジタルサイネージで歴史を学ぶこともできる。贅沢な空間でしばしくつろぎ、往時の紳士淑女が過ごした様子を想像してみよう。

入場無料／開室10:00AM～7:00PM



旧ビルの8階にあった「大ビル倶楽部」。
写真提供／株式会社大林組



オフィスフロアへはビル奥のエレベーターで移動。近代建築の趣を残す部分とはしっかりメリハリを付けている。下はモデルルーム。堂島川に面した北側に大きく窓がとられており、明るく広々としている。

特によい方向へと印象が変わったのが、建物の外周部分だろう。以前は敷地境界のかなり際まで建物が迫っていたが、現在の建物は敷地境界から4m以上セットバックされ、建物のまわりは歩道状公開空地となっていて、歩きやすい。さらに歩道状公開空地の内側には各店舗からテラスが出され、にぎわいや親しみを感じられる「ストリート感」のあふれるスペースになった。

現代的な 使いやすさも重視

このように細部に至るまでパーツが継承され、旧ビルのDNAが受け継がれた新ダイビル本館。しかし現代の基準に合わせるために大きく変えたところもある。

建へと階数を2つ減らしている。旧ビルの階高は3・5m程度だったが、階高4mあまりという現代のオフィスビルの基準に合わせるためだ。旧ビルの外観を再現すべく窓の配置や数を変えずに6階建とするため、可能な限り不自然にならないよう内部構成に工夫が込められている。

歴史を継ぐ 建て替えのモデルに

歴史を継承しながら古い建物を建て替える場合、「異なる材料で似たものに建て替える」「部分的に保存する」



4階カフェテリア。入口の壁などに旧ビルで使われていたレンガが用いられているニクイ演出も。こちらは一般利用も可能（平日11:30AM～1:30PM）。

という2つの方法が一般的だ。つまり建て替えか、保存かという二者択一。しかしダイビル本館は、元の建物を残すのでもなく、異なる素材で建て替えるのでもなく、建て替えながら素材とフォルムを継承するという中間的な方法を選んだ。

その背景には、あくまでも顧客に快適なオフィスビルを提供することを重視する「顧客第一」の企業姿勢があるという。素材を丁寧に再利用しながら内外装を再構築すれば、現代の用途に合ったオフィスビルへと更新しながら、元の建物に宿る記憶を継承することができる。ダイビル本館は、歴史ある建物を建て替える上での、新しい方法を示している。建物に価値があれども現代の用途に合わないといった理由で多くの名建築が失われているが、この方法は、今後のさまざまなビルの建て替えの道しるべになりそうだ。

だから、できること。

取材・文／江口由夏(本誌) 写真／李 宗和



300年の伝統を誇る ドイツの老舗ブランドが日本へ。 中之島で、ミュンヘンの 街並みに思いを馳せる。 ダルマイヤー

元は小さなデリカテッセンだったドイツの「ダルマイヤー」は、質の確かさが評判を呼び、バイエルン王室御用達に上りつめた。本店である「ダルマイヤーハウス」にはコーヒーや紅茶、様々な惣菜が並び、多くの観光客が訪れる。それだけに本店に赴いたファンは、世界で初めてできた旗艦店に感嘆する。内壁は本店を彷彿とさせるイエローを、天井には装飾を施した梁を踏襲している。

初めての海外出店の決め手となったのは、ダイビルを取り巻く環境だった。「ドイツ側の要望もあり、もともと日本で根を下ろす場所を探していました。都心の商業施設なら知名度は上がりますが、ロケーションはダルマイヤーらしくない。一方、中之島は本店のあるミュンヘンと立地が似ている。どちらも近くに市庁舎や美術館、劇場など文化を発信できる場があるんです」と、企画開発部長の後藤隆さんは語る。

店内で味わえるのは、コーヒーの発祥地とされるエチオピアの生豆などを使い、丁寧に抽出された一杯。かつて門外不出だった風味を求め、美術館帰りや散歩がてらに立ち寄る島民の姿も、瞬間に中之島の風景となった。



ダルマイヤー／1F

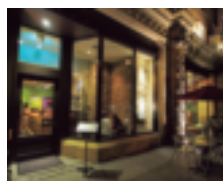
自社の商品や、ドイツ企業とのコラボグッズの物販も行なう。店内奥のカフェではコーヒーや紅茶に合わせて、ドイツ菓子やランチがいただける。出勤前にコーヒーのテイクアウト400円〜も可能だ。☎06-6479-0202 8:00AM〜8:00PM 日曜休



スペイン・バスクの記憶を ダイビルが呼び覚ます。 奈良の名レストランの味を、 中之島でカジュアルに。 ドノスティア

ドノスティアはバスク地方にある地名。スペイン国内でありながらフランスとも密に接する。だから2つの伝統が交じり合った、独特の料理文化を持つ。「出汁を取るにもアンコウやタラを使うので、鍋料理好きの日本人とバスク料理は相性がいい」と、オーナーシェフの川島宙さんは話す。奈良・富雄の人気スパニッシュレストラン「アコルドゥ」のセカンドラインとして中之島にオープンした「ドノスティア」は、本店同様、川島さんが持ち帰ったバスクの味をバースタイルで楽しめる。

「富雄が住宅地なので、次は都心で店を開きたかった。大正時代の面影が色濃いダイビルは、「アコルドゥ」がある大正3年竣工のレンガ造りのビルともリンク。本店の雰囲気やコンセプトを壊さず、バスクの雰囲気と味をよりカジュアルにと考えた、念願のバル出店です」。目を引く岩壁と鮮やかな色合いの塗り壁は、川島さんが通っていたバスクのバルをイメージ。現地のスタイルも崩さず、カウンターには関西近郊の食材がずらり。奈良生まれの素材を広める「地産外消」の意味でも、中之島の新舞台は一役買っている。



ドノスティア／1F

作りおきはせず、オーダー後に手早く仕上げる一皿は400円〜とリーズナブル。バスクワインも取り揃える。ランチは700円と限定コース1,500円の2種類。☎06-6136-5500 5:30PM〜11:30PM(ランチは平日の11:30AM〜2:00PM) 月曜休

新しく生まれ変わりながらも、歴史をうまく継承したダイビル本館。
その場所だからできること、やりたいことを、初めて中之島に出店する人たちに聞いてみよう。

ダイビル



関東の名サービスマンが ダイビルに一目惚れ。 シマの街角から 大阪のリストランテ文化を。 クイントカント

「自分の直感を信じています」と、支配人の藤巻一臣さんはダイビルの第一印象を振り返る。横浜や南青山など、関東圏で4店舗の人気リストラテを束ねる統括マネージャーの勤だった。昨年までは大阪にまったく縁がなく、関西初進出の文字も頭になかった。「ダイビル自体も知らない私に、田蓑橋に最も近い北西角を指して『是非ここに出店してほしい』。かなり精巧な完成予想図を見ても、現実味がなかったです(笑)」。しかし、ネット検索を通じ、初めて見たダイビルに「この話は進めねばならない」と直感が告げ、善は急げと翌日には快諾の返事をダイビル側に出した。

藤巻さんは「ダイビルと共に、大阪のリストラテ文化を育てたい」と気合十分。イタリアの郷土料理を現代的な解釈や技術で再構築した一皿と、関東では珍しかった藤巻流接客スタイルを新天地で披露し、手応えも感じている。「テーブルごとに異なるテンションにサービスマンは寄り添い、柔軟に対応する義務がある。それがお客様の満足に繋がります。大阪では私からボールを投げると、3つも4つもボールを投げ返してくれるのが嬉しいですね」。



クイントカント／1F

「しばらくは予約は昼夜5組限定」という方針だが、気軽に問い合わせを。ランチは10皿5,250円のコース、ディナーは16皿12,600円のコース。
☎06-6479-1811 12:00PM~3:30PM
(LO.1:00PM) 6:00PM~11:00PM
(LO.8:00PM) 日・第1・第3月曜休



遊び心ある洋館の正体は あのカレー店。 古き良きものを活かした 空間への共感が詰まっている。 旧ヤム邸 中之島洋館

英国アンティークが形作る店内。内装だけ見ればティールームかと思いきや、漂うスパイスの香りは確かにカレー店のものだ。空堀商店街にある「旧ヤム邸」の2号店が中之島へ。もともと骨董品や神戸の異人館の手触りが好きなオーナー・植竹大介さん考案の店名も、偶然にもダイビルにマッチ。どこか懐かしい空気たよう1号店の「和レトロ」とは対照的な洋館が生まれた。

空堀の店舗も忙しく、手を広げる予定はなかったつもりが、ダイビル側の熱心なアプローチに負けた。近代建築好きとしてダイビルの存在も知っていた植竹さんだが、「あの憧れのビルに出店するなんて」と不思議な感覚だった。「ダイビルの建て替えもレンガを再利用すると聞いて、古民家を改装して1号店を作り上げたことを思い出しました。通じるものを感じたんです」。



カレーといえばクイックランチでおなじみだが、食後のチャイで一服できるスタイルはここならではの。「中之島で働く人たちは目も舌も肥えていますから、ハズさないと面白くないですよ(笑)」。空堀商店街名物の混ぜカレーをめがけ、島民企業の勤め人が押し寄せている。



旧ヤム邸 中之島洋館／2F

打ち出すのは、定番のキーマ、さらっとしたルー、野菜ベースの三種類のカレーを混ぜ合わせて食べる新スタイル。ランチならサラダとヨーグルト付きで900円。
☎06-6136-6600 11:15AM~2:00PM 6:00PM~10:00PM 日・祝・第2月曜休

エリートコースが二転、
関西を拠点にした渡邊節。

渡邊節（1884—1967）は、
東京帝国大学建築科を優秀なる成績で
卒業するも、「帝國議会議事堂」とい
う難解なる卒業設計を提出することで、
指導教官であった**辰野金吾**の逆鱗にふ
れる。その当時、建設が計画されてい
た国会議事堂は、辰野とそのライバル
である**妻木黄頼**の間で設計者選びが画
策されていたのだ。つまり、渡邊は当
時の日本の建築界のドンに喧嘩を売っ
たことになる。

東京での活躍の場を失った渡邊は、
妻木の紹介もあり、韓国政府の技師を
経て大正元年（1912）、関西の鉄道
院神戸鉄道管理局に赴任。翌年、大正
天皇の即位に合わせて、国鉄京都駅改
修の責任者となる。妻木の弟子である
武田五一との関係もあり、関西を拠点
に建築活動を始めることとなった。

渡邊は、第二代目の京都駅の竣工を
見て、鉄道院を辞し、大阪商船（現・
株式会社商船三井）役員の紹介で、玉
江橋たもとの浪速倉庫2階に、渡邊建
築事務所を大正5年（1916）に開
設する。ここ、中之島の地において、
民間では全国5番目の建築事務所の誕
生である。その際の所員はわずか5名
程度。そこへ翌々年、村野藤吾（18
91—1984）が入所する。

錚々たる顔ぶれにより、
ダイビルが竣工。

渡邊建築事務所の経歴書には、大正
14年（1925）に自ら設計監理した
田蓑橋たもとに建つ「大阪ビルディン
グ」の5階に事務所を移転すると記載
されている。その「大阪ビルディング
株式会社」は、大正12年（1923）、
大阪商船・宇治川電気・日本電力の3
社により設立され、本社をこの地に建

中之島という場所 — 渡邊節と村野藤吾

安達英俊（建築家・建築史家）

大正14年（1925）に竣工したダイビル設計を担ったのは、
いくつもの建築様式を自在に使いこなした建築家・渡邊節と、
後に大阪に数々の名建築をもたらしことになる村野藤吾だった。
大正モダニズムの時代、2人が中之島で実現しようとしたものとは。

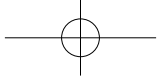
設する。その設計監理が渡邊に委ねら
れることになった。スタッフは構造設
計に内藤多伸、設備に北浦重之を外部
に擁し、村野藤吾を設計主任とした。
内藤は東京タワーや通天閣（二代目）で
も知られ、北浦は東京帝国大学教授で
ある。錚々たる顔ぶれであり、渡邊の
ダイビルにかけた思いが伝わってくる。

その外観は近代式のビルに**ロマネスク様式**を加味した「ポツ窓」で全体を
意匠する。北側正面にはやはりロマネ
スク風のアーチ（タブレット）「鷺に
乗った少女の彫刻」（大國貞蔵作）が
あり、人々を内部へと誘った。これは
建築の顔とも言える部分であり、設
計主任であった村野自身もあるインタ
ビューを受け、「このビルが解体され
る日がくれば、この彫刻だけでも保存
してほしい」と語っている。また、1
階の玄関ホールも正しくロマネスクで
ある。

ダイビルにとって西側からの眺めは
特に印象的であるが、そのコーナーを
生み出す2本の軸線は北側と西側の道
路であった（今日の新生ダイビルは西
側の軸線は公開空地という制度にて、
当初の意図は失われている）。竣工当
時からその風景は評判で、作家・北尾
鋠之助は著書『近代大阪』にて次のよ
うに記述している。

大阪ビルは目下のところ、大阪にお
ける大建築の最高のもの、（中略）試
みに田蓑橋の上に立つて夕暮れの一瞬、
ここに都会風景を織り出すところの若
きインテリの歩みを見給へ。

こうしたモダンかつ壮麗なその姿は
豪華客船に例えられ、大阪随一の名ビ
ルともうたわれたのである。



田蓑橋越しに見た竣工間もないダイビル。当時の大阪の人たちはこの眺めに圧倒された。写真提供／株式会社大林組

ダイビルの建設が、 2人にもたらしたもの。

竣工から2年後の雑誌のインタビュ
ーの中で、渡邊はこのように語る。

「遠い四千年前のエジプト時代から、
十九世紀の終わりのルネッサンス時代
までに、幾多の天才技術者に依り洗練
された建築のスタイルと云うものが、
一朝一夕にして破壊せられるものでは
ないと思ふ」(『建築と社会』1937年7月号)

ダイビルより2年前に竣工したフラ
ー社設計の東京・丸の内ビルディングが
近代式であったのに対して、渡邊はダ
イビルに適度な様式(ロマネスク)
を加味することを提案し、オーナーサ
イドに取り入れられている。このこと
を考え合わせると、渡邊がいかにか伝
統的な建築様式を重要視していたかがわ
かるだろう。つまり、近代的なビルの
一部に様式を纏う独自の手法を完成さ



旧ダイビルと昭和12年(1937)竣工の新館
(左)。写真提供／株式会社大林組

せたのが、ダイビルだったのである。

一方、建築家としての研鑽の日々を
過ごし、事務所から独立した村野に対
して、渡邊は新大阪ビルディング、大阪
ビルディング八重洲口、大阪ビルデ
ングの設計を委ねる。村野はその依頼
に対して、新ダイビルでは「ポツ窓」
を廃して「連窓」を用いるなど、光を
上手く取り込む独自のスタイルを確立
させていく。村野にとってもまた、ダ
イビルは大いなる第一歩だった。

アリストテレスは『場所論』におい
て、その風景の重要さを述べ、「建築
は唯一の場所を確保して建てられる」
と語る。その意味で渡邊節、村野藤吾
にとつての中之島での風景は、間違い
なく彼らの建築の原点であろう。

*1 辰野金吾

1854~1919 工部大学校に学び、帝国大学
工科大学学長、建築学会会長など歴任した近代に
おける日本の建築界の超重鎮。

*2 妻木寛頼

1859~1916 日本の建築家の先駆けの一人。
大蔵省などで数多くの官庁建築を手がけ、明治時
代の官庁官署組織を確立。

*3 武田五

1872~1938 建築家。新しいデザインを積極
的に取り入れ、関西で活躍したことから「関西建築
界の父」とも呼ばれる。

*4 ロマネスク様式

教会堂建築に用いられた中世ヨーロッパの建築様
式。外観に半円アーチや、聖堂のようなエントランス
ホールを持つのが特徴。

あだちひとし 1950年生まれ。1974年
から1980年まで渡邊建築事務所勤務。現在
は独立し、建築家・建築史家として活躍する。方、京
都造形芸術大学非常勤講師も務める。



ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懐徳堂
プロジェクト

2013年10月講座

「古地図ウォーカー、 大阪をゆく」

第2回 大阪の「寺町」探訪。

講師／本渡 章(作家)

本渡章さんによる
古地図をテーマにした新シリーズ。
江戸時代の地図を手がかりに、
街の移り変わりを見ていきます。

『大阪古地図パラダイス』が好評発売
中の本渡章さんによるシリーズ講座。古
地図に描かれた大坂の街と見比べながら
歩くと、現代の街の様子はどのように映
るだろうか。言ってみれば、古地図を使
った街歩きのコツを伝授する実践編だ。

第2回目では、大阪の「寺町」を取り
上げる。寺町と言えば天

王寺区の一帯が有名だ
が、他にはどんなところ
があるのか。ここに
掲載した「萬寿 大阪細見
図」を見てみると、赤く塗られた箇所が
多くある。これはお寺があった場所を示
しているもの。いわゆる寺町以外にも、
こんなにたくさんの寺が…。訪ねてみれ
ば、さらに意外な発見がありそうだ。

このシリーズでも、資料用の大判地図
を受講者全員に配付。時間や空間を自由
に行き来できるのが古地図ウォーク
のよいところ。どうぞお楽しみに！

古地図を見ながら
街を歩こう

◎今月の授業①

(古地図)

今月の1枚

「萬寿 大阪細見図」(大阪城天守閣蔵)

文久3年(1863)に発行された木版刷りの町絵図。彩色が豊か
で、特にお寺があった場所は赤く塗られて目立つようになっている。
地図の名前に「萬寿」という言葉が付いていることから、なんとなく
おめでたい感じがする。名所巡りのご利益を期待するような意図が
あったのだろうか。見ていて飽きない地図である。

「古地図ウォーカー、大阪をゆく」第2回

日時／2013年10月17日(木)

7:00PM～8:30PM頃(開場6:30PM～)

会場／追手門学院 大阪城スクエア

受講料／2,500円

定員／120名

主催／ナカノシマ大学事務局

協力／大阪21世紀協会

募
集
要
項

お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もし
くはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスに
ついては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してく
ださい。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え
下さい。

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
「ナカノシマ大学10月講座①」受付係 FAX.06-4799-1341

※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。
※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら!→



お問い合わせ
☎ 06-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)



大阪の私鉄の
個性を読み解く!

◎今月の授業②

【鉄道】

2013年10月講座

「すごいぞ!

鉄道王国・大阪〈私鉄編③〉」

講師／黒田一樹

(中小企業診断士・鉄道愛好家)



鉄道王国・大阪を語るシリーズは早くも第3弾。
駅・車両・歴史から、各社の個性を読み解く!



くろだ・いつき 東京在住の中小企業診断士だが、京阪電車80形を保存するなど無茶な発想と行動を愛する鉄道道楽者。月刊島民の鉄道記事と言えば、この人をおいて他にはいない。

大阪の鉄道の各社の駅・車両・歴史に見られる個性を、独自の視点からあぶり出したキーワードで読み解くシリーズ「すごいぞ! 鉄道王国・大阪」。絶好調の第3弾は、日本最大の私鉄である近鉄電車を中心に語る。そのキーワードとは「エキゾチシズム」だ。

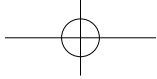
大阪・京都・奈良・吉野・伊勢志摩・名古屋と、関西を飛び出して縦横無尽に広がるスケール感は、乗客たちの「遠くへ行きたい」気分をかき立てる。ゆったりとしたターミナル、旅情を誘う特急車



両のラインアップ、独特の行き先案内表示方式、スイスの影響を強く受けた車両設計などなど。また、一見よく似た通勤電車に見られる複雑怪奇きわまる車両形式などの注目点もある。

さあ、新しくデビューした特急「しまかぜ」や伊勢神宮の式年遷宮、あべのハルカスの盛り上がりにも留まらない、ミステリアスでエキゾチックな魅力を味わう旅に出かけよう。

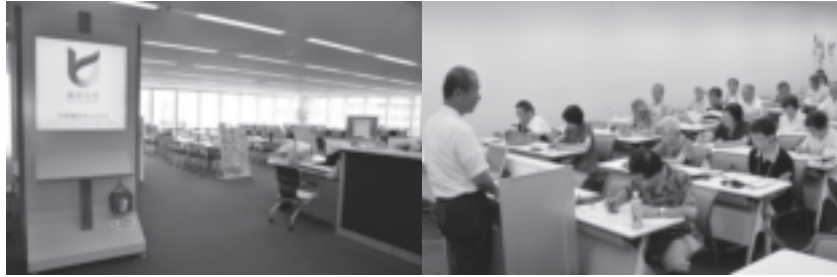
募集要項	「すごいぞ! 鉄道王国・大阪〈私鉄編③〉」	お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。
	日時／2013年10月24日(木) 7:00PM～8:30PM頃(開場6:30PM～) 会場／大阪市中央公会堂 小集会室 受講料／2,000円 定員／100名 主催／ナカノシマ大学事務局 協力／大阪21世紀協会	〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 「ナカノシマ大学10月講座②」受付係 FAX.06-4799-1341 ※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。 ※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。



REC

Community College

レック コミュニティカレッジ



龍谷エクステンションセンター(Ryukoku Extension Center=「REC」)は、龍谷大学が374年の歴史の中で培ってきた教育・研究成果を、地域社会に普及することを目的につくられた組織です。地域に開かれた大学を目指して1992年にスタートした市民向け生涯学習講座「RECコミュニティカレッジ」は、「仏教・こころ」「文化・歴史」「文学」といったコースに年間約440講座を配し、皆さまの知的欲求にお応えています。

「RECコミュニティカレッジ大阪」の多彩な学び

034 仏陀の道—大いなる死:『遊行経』を読む—

人は必ず死ぬ。それはブッダとして例外ではありません。『遊行経』はブッダの最期を語った経典です。死を絶対的な終焉とせず、ここを出発点として仏教が歩んだ歴史を垣間見てみましょう。
料金:全6回6,600円(会員)／10,200円(一般) 定員:50人
期間:9月27日(金)～12月6日(金) 時間:10:45AM～0:15PM

052 韓国の世界遺産の探訪

ユネスコの世界遺産協約によって定められた世界遺産の中で、韓国ではどのようなものが世界遺産に指定されたかを確認し、それを通じて韓国文化を理解していきます。
料金:全5回5,500円(会員)／8,500円(一般) 定員:50人
期間:11月18日(月)～12月16日(月) 時間:1:15PM～2:45PM

057 樋口一葉を読む—「にぎりえ」の世界—

樋口一葉の作品の中でも人気が高い「にぎりえ」を深く読み解きます。現状を受け容れざるを得なかったお力の「思ふ事」に迫り、明治を生きた女性たちの悲哀を鑑賞します。
料金:全4回4,400円(会員)／6,800円(一般) 定員:50人
期間:12月20日(金)～2014年2月7日(金) 時間:10:45AM～0:15PM

060 社会で役立つ世界の英語

外国人から見た日本社会の印象を知り、外国人と英語を通じて、社会で役立つ英語のスキルを学びましょう。講座には毎回ゲストをお招きし、interactiveな講義にしたいと思います。
料金:全4回6,400円(会員)／8,800円(一般) 定員:20人
期間:10月1日(火)～10月22日(火) 時間:7:00PM～8:30PM

061 英語で学ぶ「仏教と食文化」

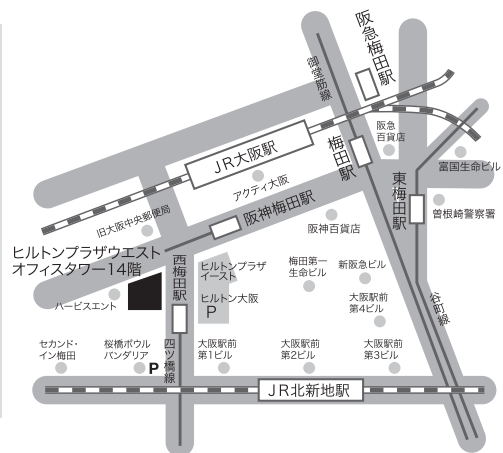
アジアの仏教と食文化の関係について取り上げ、それが日本人の思考法や社会にどのような影響をあたえているか考えましょう。
※この講義は英語を使って行います。
料金:全4回4,400円(会員)／6,800円(一般) 定員:50人
期間:10月11日(金)～11月22日(金) 時間:7:00PM～8:30PM

062 英語発音クリニック—誰でもできるようになる英語発音—

日本語を母語とする人によくみられる発音の誤りを知り、英語の発音の基礎になる音を効果的に学習する方法について学びます。また、受講者おひとりおひとりの発音クリニック(診断・改善に向けたアドバイス)も行います。発音に自信のない方、大歓迎です。料金:全7回7,700円(会員)／11,900円(一般) 定員:24人
期間:9月26日(木)～12月19日(木) 時間:7:00PM～8:30PM

マイチケット提供 龍谷講座in大阪 「2013年度関西NGO協議会 社会貢献・国際協力入門講座」

龍谷大学では、関西NGO協議会とともに株式会社マイチケットの提供を受けて、企業などで働く現役世代を中心に、学生、退職者など幅広い層を対象とした社会貢献・国際協力入門講座を開催します。「国際人材として求められるグローバルな視点」を学び、「仕事、普段の活動で活かす」ために現代の世界的課題の全体像をつかみ、課題が生まれる構造を知ることを目指します。「遠い世界のこと」ではなく、自身の仕事・職場や自分自身を取り巻く社会や環境にひきつけて理解し、課題を解決して持続可能な社会を実現するために、多様なアクター(NGO／NPO、政府、企業、国際機関など)が取り組んでいる活動を紹介します。
日時:第1回:10月23日(水) 第2回:10月30日(水) 第3回:11月6日(水)
第4回:11月13日(水) 第5回:11月20日(水) 毎回7:00PM～8:30PM
定員:70人(当日受講可。但し事前申込者を優先)
受講料:1,500円／1回(当日支払)
◎各回の詳細およびお申込みは下記のホームページをご覧ください。



会場:龍谷大学大阪梅田キャンパス

大阪市北区梅田2-2-2 ヒルトンプラザウェストオフィスタワー14階 交通アクセス:JR大阪駅 桜橋出口より徒歩4分地下鉄四つ橋線西梅田駅 3番出口すぐ、地下通路で直結

お申し込み・問い合わせは TEL. (06) 6344-0284 <http://rec-ryukoku.jp/>

電話受付／月曜日～土曜日(祝日を除く) 10:00～16:00



続いてのご登場は、たまさんの師匠でもある笑福亭福笑さん。披露して下さったのは十八番の「葬儀屋」。え、天神祭の日に?と思わせながら、きっちりネタに絡ませるあたりはさすが。その実力は、誰もが認めるところ。独特の「間」と表情だけで爆笑させる名人芸で、会場は一気に福笑ワールドに包まれていた。



第二部は、大阪天満宮文化研究所の高島幸次先生、その高島先生が養成しているボランティアガイド「天満天神御伽衆」のメンバーでもある馬場尚子さん、そして笑福亭たまさんも加わってのトークショー。渡御のコースなどが一目でわかる地図も使って、天神祭の見どころをたっぷり解説してくださった。



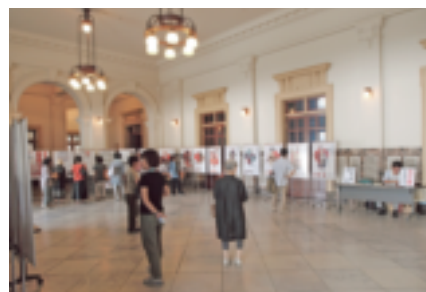
最後は天神祭らしく「大阪締め」をして終了。たっぷり笑った来場者のみなさんは、この後、中之島へやって来た陸渡御を見るために、ごきげんな顔で会場を後にしておられた。

天神祭の日の中之島で、 落語&トークショーを盛大に開催。

写真／浜田智則 李宗和



会場となったのは中之島のシンボルである大阪市中央公会堂の大集会室。雨にたたられることも多い天神祭だが、今年は快晴。その前には陸渡御観覧席が設置されている。



大集会室の前のロビーでは、かつて船渡御の船で使われていた「御迎え人形」のパネル展示も開催された。



開演30分前の会場。ステージには高座が組まれ、落語会の準備は万端。見るからに豪華な会場。



第一部の落語は若手のホープ、人気うなぎ登りの笑福亭たまさんから。お得意のショート落語で笑いの勢いを付け、天神祭にちなんだ新作「菅原君の祟り」を披露。新人・菅原君を九州へ左遷した藤原部長に災いが次々と降りかかるというムチャな設定も、天神祭の日に聴けば笑いもひとしお。

ご来場御礼!

江戸時代中期、享保年間（1716～1736）のお話。堂島に七兵衛という男がいた。実に変わった男で、世間の評判など一向に気にせず、年中裸足で働いた。「草鞋代を惜しんでまでも金儲けはしとないで」と良く言われたためしがない。

「ごめんなされや」

「ワッ：裸足屋が来た」

「駄が悪いな…。ケチンボ屋や…。一体何の用や？」

「お前さん方、風呂へ行く途中で？」

「そや」

「禪も持つてなさる？」

「風呂屋でこのサラに代えるんやがな」

「へ、ほたら今付けてますのは？」

「風呂屋に渡してついでに焼いてもらうのやがな。皆がしてるこつちや」

「そうですか…ワテは風呂屋へ行った事がないよつて。勿体ないこつちや」

「勿体ない？」

「使った禪、ワテに譲ってくれませんか。風呂屋の前で待つてますよつて」七兵衛のあだ名に「乞食七兵衛」が加わった。が、気になる風もなく毎日風呂屋の前で「御ありがとうございませ。禪の御古を頂戴いたしとります」。しばらくして、七兵衛は間口の極狭い店を出した。

「エー皆様、夜着蒲団は如何でございます」

「ホーウ乞食七兵衛にしてはまたエエのを売りに出したな」

「値も他の店の半値やで」

「肌触りもエエがな」

「ハハア細い木綿生地を綺麗に縫い合わせたんやな。色がなんのう

違ふたりして、これはこれで粋やがな」

：勿論、生地は例のアレである。

夜着蒲団は飛ぶように売れ、数年も経つと七兵衛は和泉屋と屋号を掲げ、大阪屈指の長者となった。そして、中之島の一番西端、土佐堀川が堂島川と合流し、安治川になる場所に蔵を建てた。人々は「アレが裸足で働いて身代作った七兵衛さんの蔵や」と褒め、いつしか「はだし蔵」と呼ばれるようになったという。

現在そこに架かる橋の名「端建蔵橋」は、七兵衛の「はだし蔵」に因んで付けられたとも言われている。勿論、中之島の西の端に建つ蔵だからという由来の方が信憑性があるが、大阪的には断然「はだし蔵」であろう。

きょうどう・なんかい

1964年、兵庫県加古川市生まれ。大阪大学卒業（1989年）に三代目旭堂南海に弟子入り。1998年大阪市より「咲くやこの花賞」授賞。得意ネタに「太閤記」「難波戦記」「浪花侠客伝」「天満宮霊驗記」など。

中之島の西に建った 「はだし蔵」。



端建蔵橋は中之島の西の端にある。土佐堀川、堂島川、安治川、木津川と、多くの川が接する地点で、他にも多くの橋がかかる。

NRI 未来創発フォーラム 2013

参加無料

お申し込み
受付中!

いま、
未来を
創るために。

NRI未来創発フォーラムは、各分野において第一線で活躍する有識者とNRIの専門家が、
これからの世界や日本が直面する課題と、
それを乗り越えるためには今何をすべきかについて考えていくフォーラムです。

10月9日(水) 13:30→17:00 [開場12:30] 大阪国際会議場 (グランキューブ大阪) [メインホール]

※10月28日(日)に東京でも本フォーラムが開催されます。詳細は当社ホームページ (<http://nri.co.jp>) からご覧いただけます。



参加申込方法

参加は無料です。事前にお申し込みをお願いいたします。なお、**お申し込み受付は先着順となります**。定員に達し次第受付を締め切りますので、ご了承ください。
以下の①②③いずれかの方法でお申し込みください。(お申し込みは、お一人一回限り有効とさせていただきます。) ■定員:1,500名

① ホームページでのお申し込み

当社ホームページにアクセスし、お申し込みフォームから必要事項を送信してください。



お申し込み締切: 10月8日(火) 17:30まで

② FAXでのお申し込み

郵便番号・住所、氏名(ふりがな)、年齢、性別、ご職業、電話番号、E-mail、参加希望会場(大阪)をご記入の上、次の宛先までお送りください。

FAX: 0120-958-619
「NRI未来創発フォーラム2013・大阪」事務局 行

お申し込み締切: 10月2日(火)(必着)

③ はがきでのお申し込み

郵便番号・住所、氏名(ふりがな)、年齢、性別、ご職業、電話番号、参加希望会場(大阪)をご記入のうえ、下記の宛先までお送りください。

〒102-8481 東京都千代田区麹町5-1
弘済会館ビル6F 株式会社コングレ
「NRI未来創発フォーラム2013・大阪」事務局 行

お申し込み締切: 10月2日(火)(必着)

FAX、はがきお申込者 共通注意事項

参加申込受付は「参加証」の発送をもって代えさせていただきます。参加証は9月上旬から順次郵送いたします。フォーラム当日は参加証をご持参のうえ、受付にご提出ください。(お申し込みいただいた住所に参加証を郵送させていただきますので、正確な住所の記載をお願いいたします)

※プログラムの内容・講演者・パネリストは、予告なく変更となる場合がございます。 ※やむを得ない事情等により、本フォーラムを延期中止する場合がございます。 ※ご記入いただきました皆様の個人情報は、本フォーラムの参加受付、および今後、当社が開催するフォーラムのご案内の目的に限って利用させていただきます。 ※当社の個人情報の取扱いについては、次のURLからご覧いただくことができます。▶<http://www.nri.co.jp/site/privacy.html>

主催: **株式会社 野村総合研究所**

お問合せ先: 「NRI未来創発フォーラム2013・大阪」事務局 (電話受付時間 ⑨~⑫(夜除く) 9:30~17:30 / FAX 424時間受け付けております)
TEL: 0120-958-912 FAX: 0120-958-619 E-mail: mirai2013@congre.co.jp

「NRI 未来創発フォーラム」公式フェイスブックのアカウントはこちら

<http://www.facebook.com/nriforum.jp>

トウミン月報

2013年9月1日発行

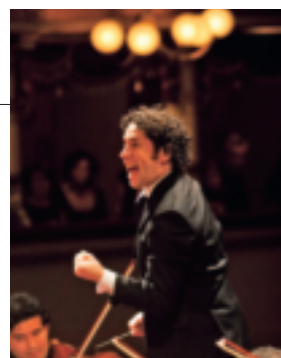


photo:Marco Brescia/
Teatro alla Scala

今年4月のこけら落とし公演を皮切りに、フェスティバルホールではオペラやミュージカル、ジャズに能や狂言まで幅広い演目が行われ、日々話題に。

この9月の目玉は、なんといっても25年ぶりに大阪で実現するミラノ・スカラ座来日公演。生誕200年を迎えるイタリアの作曲家、ヴェルディを讃える2日間、フェスティバルホールが誇る音響とマッチした演目になること間違いなし。

初日はヴェルディの名作歌劇「アイーダ」を、ミラノ・スカラ座日本初上演の演奏会形式で。翌日は「アイーダ」

あのミラノ・スカラ座が フェスティバルホールで来日公演



や「椿姫」など、彼が生んだ珠玉の名曲の中から、よりすぐって演奏されるガラ・コンサートを開催する。指揮は「現在最もチケットの入手が難しい」と言われるグスタボ・

ドゥタメル。32歳にして、イタリア・オペラの最高峰で250名もの演者を率いる注目の若手だ。見逃せない二夜のチケットは残りわずか。

(江口由夏・本誌)

ミラノ・スカラ座【ヴェルディ生誕200年祭】

●歌劇「アイーダ」全4幕・演奏会形式
(イタリア語上演・日本語字幕付き)
日時／9月24日(火)6:30PM開演
料金／S席 40,000円 A席35,000円

●特別演奏会 ヴェルディ ガラ・コンサート
日時／9月25日(水)7:00PM開演
料金／S席 26,000円 A席22,000円
問い合わせ／フェスティバルホール ☎06-6231-2221
※2日通し券もあり
※両日とも、B～D席とBOX席は完売

中之島や御堂筋興業各所をステージに開催される「大阪クラシック」も今年で8回目。初回の2006年以来、大阪フィルハーモニー交響楽団の桂冠指揮者である大植英次氏プロデュースのもと、クオリティの高い演奏力をまかなう披露してきた。オフィス街の至るところで、ほぼ無料で味わえるプロのミニコンサートが話題を呼び、90の公演で5万人を超える来場者を集め、今年の内容に期待を寄せる人も多いはず。

今年は7日間の開催期間中、

「大阪クラシック」で プロ演奏をお手軽に

全38会場でなんと100公演に拡大。その形態も、独奏から弦楽四重奏、打楽器アンサンブルのようにさまざま。無料公演の多さは変わらず、中央公会堂など特別なホールでの開催も低料金に設定。「二人でも多くの方に一流のクラシック音楽に親しんでもらいたい」という願いが込められている。音楽がまらにあふれる1週間を楽しみに待とう。

(江口由夏・本誌)

大阪クラシック～街にあふれる音楽～

期間／9月8日(日)～9月14日(土)
時間／10:30AM～8:00PM ※開催日によって異なる
会場／大阪市中央公会堂、大阪市役所、中之島ダイビル、アートエリアB1、相愛学園 本町講堂、リーガロイヤルホテルなど
料金／無料(一部有料公演あり)
問い合わせ／大阪市総合コールセンター ☎06-4301-7285
※日程や曲目、会場など詳しくは
<http://www.osaka-phil.com/oc2013/>



©飯島隆

「こんな店があったら...」 「架空の本屋」のブックカバー展

天満にある映画専門古書店「駒鳥文庫」、江之子島の文化芸術創造センターの「ON THE BOOKS」、東横堀の「FOLK」と、中之島の周辺エリアにある3つの古書店が、ちょっと変わった展覧会を開催。「約100人のブックカバー展」と題して、「こんな本屋があったら...」という架空の本屋のブックカバーを募集し、それを展示するといふものだ。

アイデアを思いついた主催者の一人、「駒鳥文庫」の村上淳一さんは、ブックカバーに注目した理由をこう語る。「いろいろな人から本を集める一箱古本市はやったことがあるんですが、本を送ってもらっただけでなく、実際に店を出してほしいなと思ったんです。でも実際には無理ですね。本屋さんに関係があるって、各店ごとの個性が出るものは何

かと考えていたら、ブックカバーを思いついたんです。作家やイラストレーターなど約100人が架空の店のブックカバーを考案（もちろん店の名前や品揃えも考案する）。懐かしい風合いに仕上げる「レ

トロ印刷」で印刷されたものが展示される。気に入ったものはその場で購入することも可能。古書即売コーナーや、本にまつわるイベントも盛りだくさんとのこと。本好きは一度のぞいてみるべし。
(大迫力・本誌)

「約100人のブックカバー展」
期間／9月13日(金)～10月8日(火)
時間／10:30AM～9:00PM
(最終日は5:00PMまで)
会場／梅田ロフト 7階
ロフトフォーラム
入場無料
<http://bookcoverten.com>



オフィス街の中心でイタリア語が学べるという好評なイタリア文化会館。朝日新聞ビルから中之島フェスティバルタワーへ移転し、さらに快適に学習できる環境となった。語学だけでなく、オペラやデッサ



イタリア文化会館で 秋講座がスタート!

講生を募集 중이다。イタリア語に興味はあるけれど、まったくなじみがない人でも大丈夫。開講予定のクラスは入門からさらに上級のクラスまであり、振り替えレッスンができる曜日や時間も幅広い。「和気あいあいとしたレッスンの雰囲気。気だけでも味わってもらいたい」と全クラスの見学が可能。なうえに、今回は初心者に向けた無料体験レッスンを開催。この絶好の機会に、イタリア講師たちの親しみやすさ、イタリア語の楽しさに触れよう。
(江口由夏・本誌)

2013年秋・イタリア語講座
受講料／90分授業×12回 35,000円ほか
期間／9月～12月
◎入門者向け無料体験レッスンと、クラス見学を開催中。
※事前に電話かメールで要予約
授業内容や日程、その他講座ラインアップなど、詳しくはhttp://www.iicosaka.esteri.it/IIC_Osakaにて。
問い合わせ・申し込み／
イタリア文化会館 ☎06-6229-0066
corsi.iicosaka@esteri.it

「graf」がデザインを手がけた ソーラーLEDペンライトが登場

デザイン&クリエイティブ集団「graf」の拠点である「graf studio」に、画期的な新商品が仲間入り。スフェラーパワー株式会社が開発したスフェラーという球状太陽電池を内蔵したペンライト、「スフェラースティック」だ。どこか工業的で、コスト面でも家庭には浸透しきれていない太陽電池。小さな球型にすることで、より扱いやすく、効率的に太陽光を取り込めるように。そこで「日常に溶け込むデザインを」と白羽の矢が立ったのが「graf」。実は「graf」のデザインチームである松井貴さんと井上真彦さんがスフェラーを使った製品をデザインするのは、「スフェラーランタン」に続き2度目だ。

生まれたのは、生活防水も備えた携帯しやすいペンライト。「山歩きにぴったりなので夜の中の鳥散策にも向いているかな」と実体験から語る松井さん。「目の中に取込んだ太陽光エネルギーを使い、このペンライトは発光します。自然光を利用した製品になじむよう、カラーも夜空や木々の

緑などの自然を意識しました」と井上さん。その発想は、街なかながら自然豊かな中之島にヒントを得ているのかも。
(江口由夏・本誌)



スフェラースティック
木製スタンド付きソーラーLEDペンライト
カラー／シルバー・ネイビー・グリーン・カップパー
価格／10,500円(税込)
◎詳しい仕様や販売店舗は特設サイトにて。
<http://www.sphelar.com/gallery-category/sphelar-stick/>
[graf]
営業時間／11:00AM～7:00PM
定休日／月曜(祝日の場合は翌日休)
☎06-6459-2100

華やぐ街に誘われて⑥

フェスティバルプラザの「大阪らしさ」をめぐる



本へ来たのは1997年のこと。大学で日本語を学び、それまでは故郷で語学講師をしていたのですが、「せっかく勉強した日本語を忘れてしまおう」と思い、日本へ渡ろうと決めました。それから9年間、東京でイタリア語講師として働き、貿易会社での勤務を経て、2011年から中之島の旧朝日新聞ビルにあったイタリア文化会館で働くことになりました。

それまで大阪のイメージはまったくなかったのですが、来てみたら最高でした。一番良いと思う

たのは人間性ですね。福島区の吉野に部屋を借りたのですが、40室以上あるそのマンションの住人たちと1週間でみんな友達になりました。「どこから来たの?」「日本語上手ね」とか、顔を合わせる度に話しかけてくれるんです。通勤途中に通る鰻屋のご主人も、鰻をさばく手を止めて挨拶してくれました。

コミュニケーションにおいて、東京では同じマンションに住んでいても、子どもやペットを介してようやく会話

が成立するようなどころがあるのですが、大阪では私自身を受け入れて接してくれていることが実感できました。大阪で最初に来たのが中之島で良かったなと思います。渡辺橋を渡っていると、ふっと潮の香りがする時があ



イタリア人から見た、大阪の人・街・店。

談/ミケランジョロ・セヴィリーニ (イタリア文化会館)

が高い。シェフがイタリアで修業してきただけではなく、食材への理解も深く、味も美味しい。量が多いのも嬉しいですね(笑)。

ところで、日本で流行っているバーですが、イタリアの場合は早朝から深夜までやっていて、地下鉄の切符が買えるなど、ただコーヒーやお酒を飲むだけの場所ではありません。

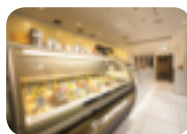
また、ボールではスタンディングのカウンターがあるのが普通ですが、日本のボールではそこを使う人はまだあまりいないようです。立って飲み食いするのは行儀が悪いという習慣があるからでしょうか(立ち呑み屋さんはありますが...)。外国の文化を受け入れるのには時間がかかりますし、その受け入れ方にも文化の違いが現れるという視点で観察するのはとても興味深いことです。

ミケランジョロ・セヴィリーニ
イタリアトスカナ州出身。ペネシア大学時代に日本語を学び、日本に関心を持つ。現在は東京のイタリア文化会館で、催事の企画運営担当。来日16年目。

ボール・ジェラテリア ラッフィナート

●中之島フェスティバルタワー B1F

日本では珍しいジェラテリア&ボール。イタリアンジェラートと共にエスプレッソなどのカフェメニューやお酒が楽しめる。スタンディングカウンターでサクッと楽しむ本場さながらの使い方をする人も多い。季節代わりのジェラートは2種類で450円、3種類



550円。エスプレッソ280円。パニーニなどの軽食もあり。
☎06-6228-3444
8:30AM~11:30PM
不定休

マノエマノ

Mano-e-Mano pizzeria&bar

●中之島フェスティバルタワー B1F

石窯で350℃の高温で一気に焼上げるナポリ風ピッツアが自慢のピッツェリア&バー。ピッツアは定番のほか季節限定メニューもあり。写真(上右)は秋からのおすすめ、自家製ソーセージ入りのスカモルツァ・フンギ(キノコとスモークチーズ)1,700円



(小1,500円)。その他にパスタや小皿料理なども豊富。
☎06-4708-3517
11:00AM~11:00PM
不定休

祝 祭 へ よ う こ そ 。



<http://festivalplaza.jp/>

提供/株式会社 朝日ビルディング



大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です！



『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪電車関連 京阪電車主要駅／京阪シティモール／京阪モール／デリスタ天満橋店／ホテル京阪天満橋／ホテル京阪京橋
- 大阪市北区・中央区・福島区 [書店] 旭屋書店 梅田地下街店／カベラ書店／紀伊国屋書店 本町店／ジュンク堂書店 大阪本店／ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ店／ジュンク堂書店 天満橋店／MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店／スタンダードブックスア／天牛塚書店 大江橋店／ブックファースト 梅田店／ブックファースト 淀屋橋店／文芸堂書店 淀屋橋店／隆祥館書店
- [公共施設・大学関連施設など] アイスボット／朝日カルチャーセンター／味の素 食のライブラリー／ABC朝日放送／大阪企業家ミュージアム／大阪工業技術専門学校／大阪国際会議場／大阪市中央公会堂／大阪市立中央図書館／大阪市役所市民情報プラザ／大阪城天守閣／大阪商工会議所／大阪大学中之島センター／大阪21世紀協会／大阪府立中之島図書館／大阪ボランティア協会／大阪歴史博物館／追手門学院 大阪城スクエア／川の駅はちけんや／関西学院大学 大阪梅田キャンパス／慶應大府リバーサイドキャンパス／国立国際美術館／CITY NAIL'S インターナショナルスクール／芝川ビル／市立住まい情報センター／中央電気倶楽部／ホテルNCB／メビック扇町／立命館大阪オフィス／龍谷大学大阪梅田キャンパス
- [店舗・医院など] アリアスカ マーブルトレ／アンドール 本町本店／上町貸自転車／Ultra 2nd／江戸前料理 志津町／天満橋鍼灸整骨院／MJB珈琲店／大西洋服店／000(オー)／カセッタ／喫茶センター／喫茶SAWA／グランドスイート中之島／黒門さかえ／コモカフ／サトウ花店 中之島本店／ザ・メロディ／じろう亭／Girond's JR／心斎橋山田兄弟歯科／住友病院／セブンイレブン大阪証券取引所店／タビエスタイル／ティーハウスミュージカ／なまがわ鍼灸整骨院／東郷歯科医院／NAKAGAWA 1948 淀屋橋店／ナンジャノ／バスターレー／花かつ／BAR THE TIME 天神／平岡珈琲店／ビルマニアカフェ／フレームハウス／ミニジロー／宮崎歯科／やきとり ばかや／吉田理容所／ラクッカーニヤ／LES LESTON
- 大阪市内その他 [書店] 伊勢屋書店／大阪書店／紀伊国屋書店 京橋店／なんばミヤタ／福島書店／柳々堂／ループル書店 [公共施設・大学関連施設など] 大阪市社会福祉研修・情報センター／大阪市立図書館／川口基督教会 [店舗・医院など] あじさい／アートアンドクラフト／欧風食堂 ミリパール／大阪市信用金庫 江戸堀支店／御舟かめ／Calo Bookshop and cafe／写真とプリント社／鳥かごキッチン／ネールサロン スワンナ／パルビコ／ホテル64オオサカ／MANGUEIRA／Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店／学運堂 フレスト店／Books 呼文堂／水嶋書房 くずはモール店／水嶋書房 くずは駅店／大阪狭山市立図書館／大阪大学企画部広報・学連事務室／大阪大学 21世紀徳徳堂／大阪大学本部／寝屋川市役所／摂南大学 地域連携センター／郵政考古学会／ゆーたりんこ
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店／水嶋書房 丹波橋店／伊丹市文化振興財団／大手通りストリートギャラリー 街・発信／納屋工房／タバーン・シンブソン／百練／奈良県立図書館情報館

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告 オダサク散策

『夫婦善哉』を始め、生誕100年を迎える織田作之助の作品には中之島がちらほら。
登場するスポットや資料などから、オダサクと中之島の関係を読み解こう。

●『月刊島民』vol.63は2013年10月1日発行です！

編集・発行人／江 弘毅(編集集団140B)
編集・発行／月刊島民プレス
若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)
松本 創 大迫 力(編集集団140B)
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341
制作進行／堀西 賢(ALEGRESOL)
デザイン／山崎慎太郎
表紙イラスト／奈路道程
印刷／佐川印刷株式会社

気のせいじゃない、
千年の深さ。

中之島けい子
知恩院

おけいはん、京の不思議伝説

京阪電車によって、神秘的な物語の地をめぐる旅へ。

ぬれがみ
濡髪大明神(知恩院)



濡れ髪の子どもの姿で現れた狐が寺の守り神に。縁結びの神としても評判!
◎祇園四条駅下車

よつぎ
世継地蔵(上徳寺)



江戸時代、願をかけた人が立派な子を授かったと評判に。いまでも地元の信仰厚し。
◎清水五条駅下車

だいじく
代受苦地蔵(矢田寺)



開山の上人が地獄を訪れて目にしたという、罪人の身代わりに焼かれる菩薩がご本尊。
◎三条駅下車

冥土通いの井戸(六道珍皇寺)



昼は朝廷、夜は閻魔大王につかえた異才の官吏「小野篁」が、地獄に通った井戸。
◎清水五条駅下車

鬼門除けの猿(赤山禅院)



拝殿の屋根に座るのは、鬼門に寄る災いを見張る猿。なんと脱走防止の金網つき。
◎叡山電車 修学院駅下車

せいめい
晴明井(晴明神社)



平安時代に活躍したスゴ腕の陰陽師、「安倍晴明」の井戸には病氣治癒のご利益も。
◎出町柳駅からバス

くさぬき
釘拔地蔵(石像寺)



人々の苦を抜く「苦抜き地蔵」が「釘拔地蔵」へ。お堂には奉納の釘抜きがびっしり。
◎祇園四条駅・三条駅からバス

おけいはん、
京阪の
人。

チャレンジおけいはん

検索

Facebook

@c.okeihan

詳しくは、ホームページをご覧ください。